

令和5年12月25日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

北海道		
学校名	管理機関名	設置者の別
市立札幌開成中等教育学校	札幌市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
開成中等教育学校	https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/10,4590,c,html/4590/20220204-122005.pdf

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表 URL	学校関係者評価結果の 公表 URL
開成中等教育 学校	https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/29,3854,c,html/3854/20231101-083405.pdf	同左

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校が課題探究的な学習を6年間にわたって取り組む手法として国際バカロレアのプログラムを活用することを札幌市教育委員会が決定していることであるが、学校教育目標を達成する上ではこの取組は必須のものである。

効果としては、生徒が主体的かつ協働的に学ぶ態度が育成され、学習者に必要な学習の方法を充分身に付けることができるようになってきていることである。

課題としては、教員が生徒一人一人に対する個に応じた指導と支援、フィードバックの分量が通常よりも圧倒的に多いことから、他の業務にかかる時間を削減するなどの調整が必要である。学校全体で業務の優先順位を共有して実行することが一つの課題である。また、DPのコア科目である知の理論(TOK)に基づいた「知の探究」を、DPを選択していない生徒にとってのコア科目として位置付けているが、他の教科・科目の授業において「知の探究」に関連付けた授業実践は不十分であり、改善すべき点と言える。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では開校以来、課題探究的な学習の実践に取り組んできたが、大きな効果が出ている。このカリキュラムを経て卒業した生徒たちは、卒業後の進路を実現するために、自己分析など実態を丁寧に把握し、自分に適した学習計画を立てて学習に取り組んだことで十分に満足できる進学を遂げている。また、進学先の大学等においてもレポート作成やプレゼンテーションによる発表については他の学生とは異なり自信を持って取り組むことができていると多数報告を受けている。本校での学習を通してこういったスキルがきちんと身に付けることができたと言える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

学校全体の業務バランスの見直しを図ることで、授業準備と生徒へのフィードバックするための準備の時間確保ができるようにする。これまで、組織改編として担任業務と分掌業務をそれぞれ主として担当することで、業務負担の軽減と会議時間の削減を実行してきたが、更なる工夫に取り組むこととする。また、DPを選択しない生徒たちが履修している「知の探究」と、そのベースとなっている「知の理論(TOK)」について、全ての教員が学習する研修の機会を設けるなどし、教員が担当する教科・科目にこれらの授業のエッセンスを取り入れるようにする。